



再生利用WGの設置について

2022年8月3日

環境省環境再生・資源循環局

今後の戦略検討会で議論すべき事項、スケジュール（案）について



中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略(2015～2024)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025～2044年度
最終処分の方 向性の検討	<ul style="list-style-type: none"> 除去土壌等の発生量、放射能濃度の再整理 再生利用見込み量の検討 最終処分場の構造、必要面積の検討 最終処分に関する放射線安全性評価 トータルコストの検討 			<ul style="list-style-type: none"> 最終処分の具体化 取り出し・搬出方法、跡地利用の検討
再生利用の 推進	飯舘村長泥地区等での実証事業の実施		手引き充実化 ・省令策定	<ul style="list-style-type: none"> 再生利用先の具体化 本格化の推進
減容・再生 利用技術の 開発	<ul style="list-style-type: none"> 技術実証の進捗整理 今後実施する技術実証項目の抽出、実施 技術の組み合わせの検討 処理コストの整理・検討 技術を踏まえた最終処分場の構造の検討 			
全国民的な 理解の醸成 等	<ul style="list-style-type: none"> 飯舘村長泥地区での実証事業を中心とした理解醸成の推進、現地見学会等の継続実施 全国での対話フォーラムの継続実施 SNS等も活用した理解醸成の強化 次世代への理解醸成活動 除去土壌を用いた鉢植え等の設置 			

目的

- 平成28年(2016年)に策定した中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略及び工程表において、令和6年度(2024年度)を戦略目標として減容・再生利用に関する基盤技術の開発を進めていくこととしている。
- 再生資材化した除去土壌を安全に利用する方策について検討するため、「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会」の下に「中間貯蔵施設における除去土壌等の再生利用方策検討ワーキンググループ」(以下「再生利用WG」という)を設置する。

検討内容

- 実証事業等で得られた知見の整理・評価
- 中間貯蔵除去土壌等を再生資材化し、安全に利用する方策の検討
- その他

スケジュール

- 令和5年度を目途に成果をとりまとめ、「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会」に報告する。

委員構成



◎座長

◎勝見 武	京都大学大学院 地球環境学堂 教授	環境地盤工学、土壌汚染対策
遠藤 和人	国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 廃棄物・資源循環研究室 室長	地盤環境、物質移行
佐藤 努	北海道大学大学院 工学研究院環境循環シ ステム部門 資源循環工学分野 教授	土壌、核種移行、放射性廃棄物処分
新堀 雄一	東北大学大学院 工学研究科 量子エネル ギー工学専攻 教授	放射性廃棄物処分、地下水移動現象
久田 真	東北大学大学院 工学研究科 土木工学専 攻 教授	土木工学、建設材料
万福 裕造	農業・食品産業技術総合研究機構 本部企画 戦略本部 上級研究員	農学
宮武 裕昭	土木研究所 地質・地盤研究グループ グループ長	土木工学
宮脇 健太郎	明星大学 理工学部総合理工学科 環境科 学系 教授	廃棄物工学